



# オーボエ 取扱説明書

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、製品の性質等を十分にご理解  
いただきますようお願いいたします。



## 安全上のご注意

- オイルや小さな部品類をお子様がお口にしない様、ご注意ください。
- 楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。
- ぶつかけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、演奏に支障をきたす恐れがあります。取扱いは十分ご注意ください。
- 調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。保証の対象外となります。
- 楽器を火気に近づけないでください。火災やけがの原因となることがあります。
- やむを得ず先端が尖った部位がございます。取扱の際には十分ご注意ください。

## ご用意いただくもの

### 必要なもの

- **コルクグリス** 接合部に塗ることで抜き差ししやすくなります。
- **スワブ** 管内にたまった水分を取り除きます。
- **クリーニングクロス** 管体表面の汚れを拭きます。
- **クリーニングペーパー** タンポと音孔の間にたまった水分を取り除きます。
- **ガーゼ** 水分やグリスを拭き取ります。
- **水入れ容器** リードを湿らせる時に使用します。
- **リードケース** リードを保管し保護します。

### あったら便利なメンテナンス用品

- **シルバークロス** 銀メッキ仕上げのキイの変色を磨き取ります。

## オーボエのよくある質問

### 音がおかしい、出ない音、出にくい音がある

**チューニングはあっていますか？**  
オーボエは楽器本体にチューニング機能が無く、リードの抜き差しで音程を調整することも一般的には推奨されていません。その為、チューニングは奏者の吹き方と、リードの開き方や長さなどを総合的に見直して合わせる必要があります。また、楽器のピッチは気温や管内の温度によっても変化します。気温の低い場合は、手のひらで包むようにして管体を十分に温めて下さい。

**キイ、タンポの状態は正常ですか？**  
キイのゆがみ、キイ同士のバランスの崩れ、タンポの劣化、コルクの劣化など様々な原因により、タンポがトーンホールをうまくふさいでいない状態になると音が出なくなったり、音抜け、音程が悪くなります。この場合は修理に出しましょう。

**音孔に水分がたまっていますか？**  
吹奏中に急に音が出なくなった場合、トーンホールにたまった水分が原因で起こることがあります。その場合該当するキイを開いて息で水分を飛ばし、クリーニングペーパーで水分を取り除いてください。こまめにスワブを通すことで予防できます。

**リードの状態は良いですか？  
リードの状態を確認しましょう。**  
リードが乾燥しているとうまく振動せず、音が出ないことがあります。また、リードは天然素材を使って作られる消耗品のため、破損や経年変化により、音が出なくなる場合があります。同じメーカーのモデルの新品であっても1本ずつ違いがありますので、色々な種類を試し自分に合ったリードを探しましょう。



## 組み立て前に

- 管体の組み立て時・分解時には、キイに無理な力がかからないよう、十分にご確認ください。
- キイに無理な力がかかってキイが曲がると、急に鳴りが悪くなったり、音が出なくなることもあります。取扱いは十分に気を付けましょう。
- 新品を最初に組み立てる場合、ジョイントがきつい場合があります。その場合はコルクグリスを塗って差し込みます。コルクグリスは、多く塗りすぎないようにご注意ください。
- 管体の材質の特性上、冬季など楽器が冷えている場合、キイが動かなくなる可能性があります。手で楽器を十分に温めるなどして、楽器全体が室温に慣れたから、吹奏を始めて下さい。
- 楽器をケースから取り出す際は、キイやパイプを持たないで下さい。



### キイ(タンポ)がくっつく、べたつく

**タンポに水分や汚れがついていませんか？**  
演奏後に管内の水分をよく取り除かないと、タンポのべたつきや劣化の原因となります。管体にスワブを通した後は、クリーニングペーパーなどを使用し、タンポに残った水分をよく取り除きましょう。リードソケットに近いトーンホールほど水分がたまりやすいです。改善しない場合は、修理に出しましょう。

### 組み立てがスムーズにできない

**コルクグリスは塗りましたか？**  
**ジョイントがきつい場合** → 使用していくうちに、コルクがなじんでつぶれてくる事を考慮しているため、新品の状態では少しきつめになっています。グリスをコルクに塗ってもきつい場合は、接合部の内側にも少量のグリスを塗ってみましょう。抜けなくなってしまった場合は、無理に抜こうとせず修理に出しましょう。

**コルクは劣化していませんか？**  
**ジョイントがゆるい場合** → 使用していくとコルクが劣化して、だんだんゆるくなります。演奏中に動くほどゆるくなる前に、コルク交換の修理に出しましょう。

### キイの動きが悪くなった

**パネは外れていませんか？**  
管体にはいくつもの針パネがかかっています。お手入れのときにクロスでひっかけてしまうなど、パネが外れてしまうことがあります。パネが劣化して折れたり、また、パネが刺さっている支柱の穴が広がって抜けてしまったりすることもあります。この場合は修理に出しましょう。

### スワブが抜けなくなった

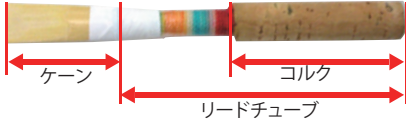
**スワブを正しく通していますか？**  
スワブが丸まったり重なったりしたまま通すと、管内でつまる原因となります。ベルからスワブが見えない状態で引っ掛けてしまった場合、まずは上管と下管を外してみましょう。上管の接合部から引き戻すことができない時は、無理せず修理に出しましょう。

# リードについて

## 1 リードの準備



演奏前には必ずリードを水で湿らせてください。水を張るための小さな入れ物を用意し、リードの糸の巻き終わり位まで浸します。この間に、楽器の準備をしましょう。楽器に取り付ける前に、リードだけで音を出し、リード内の水分を飛ばします。



リードチューブ

！ リードはとてもデリケートなパーツです。先端は非常に薄く、ぶつかけたり引っかけたりすると先端部分の欠けや割れの原因になります。リードの取扱いには十分気をつけてください。

## 2 リードの取り付け



リードチューブ部分をつまんで、リードを本体のソケット部の一番奥まで差し込みます。

※ ケーンの部分を握らないで下さい。割れや破損の原因になります。



この部分をつまみます。

付属品のリードは、出荷時にリードソケットへの抜き差しを確認してあります。リードのメーカーやモデルによっては、コルクがきつくて入らない場合や緩くグラついてしまう場合があります。その場合は無理に差し込まずに、リードをお買い上げの販売店にご相談ください。

## 3 リードのお手入れ



### 1. リードの抜き取り

- ① リードチューブ部分を右手でしっかりとつまみます。
- ② 左手は組み立て時の「持ち方②」を参考に上管を握ります。
- ③ 左手親指でリードチューブをつまんでいる右手を真っ直ぐ上に押し上げるようにして抜き取ります。

### 2. リードのお手入れ

- ① ケーン表面の水分と汚れをやさしく拭き取ります。
- ② リードケースに片付けます。

！ 休憩時なども、リードの破損を防ぐためこまめに楽器から外し、リードケースへ片付けるよう心がけましょう。

# 演奏前の準備

## 1 楽器の組み立て (下管 - ベル)

1 下管とベルの接合部に薄くコルクグリスを塗ります。



2 「持ち方①」を参考に、キイに無理な力がかからないように楽器を持ち、下管とベルを組み立てます。その際、うまく力が入らない場合は、ベルをお腹に当てて押し込んで下さい。



3 連結キイの位置を合わせます。



### 持ち方①



### ● 左手の持ち方



左の写真のように左手の人差し指を管の中に入れ、親指をキイのポストに置き中指をサムレストに掛けるように包み込みます。

### ● 右手の持ち方



赤丸のキイを押すことで、ベル側の連結キイが上がります。

左図の赤丸のキイを右手親指で押さえ、ベルを手のひらで包むように持ちます。

## 2 楽器の組み立て (上管 - 下管)

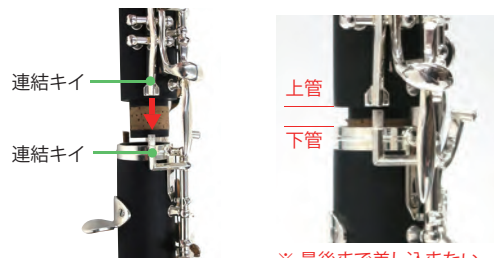
1 上管と下管の接合部に薄くコルクグリスを塗ります。



2 「持ち方②」を参考に、キイに負担がかからないように楽器を持ち、途中まで差し込みます。その際、うまく力が入らない場合は、ベルをお腹に当てて押し込んでください。



図のように上管と下管の連結部が真っ直ぐに合うようにし、連結部が重なる直前まで差し込みます。



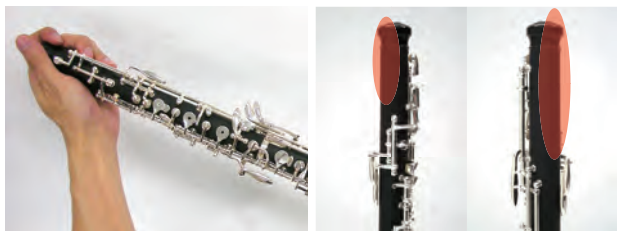
※ 最後まで差し込まない。

### 持ち方②



#### ● 左手の持ち方

リードソケット付近のキイが無い部分を持ちます。



#### ● 右手の持ち方

管体のキイが無い部分を持ちます。



### 3

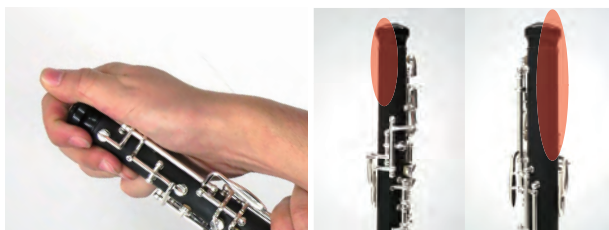
「持ち方③」のように持ち替えます。連結キイがぶつからないことを確認しながら、そのままベルをお腹に当てて押し込んで下さい。



### 持ち方③

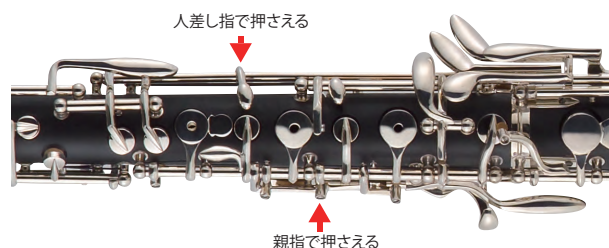
#### ● 右手の持ち方

リードソケット付近のキイが無い部分を持ちます。



#### ● 左手の持ち方

親指と人差し指を使い矢印の部分轻轻一押し、連結キイを上げます。



# 演奏後のお手入れ

## 1 管体のお手入れ (スワブを通す)

ベルからおもりの付いたヒモを入れ、リードソケット側にてたヒモを引っ張ります。布部分がソケット側より少し見えたとこで止めます。その際ベル側に布を余らせておきます。



❗ スワブは丸まった状態で使用すると管内で引っ掛かり抜けなくなることがあります。必ず広げてから使用してください。



ベル側に余らせておいた布をつかみ、ベル側へ引き戻します。

この作業を何度か繰り返し、最後はスワブをベル側より引き出します。

❗ オーボエの管内は他の楽器に比べ特に狭くなっております。その為リードソケット部よりスワブを引き抜こうとすると途中で引っ掛かり抜けなくなってしまうことがあります。

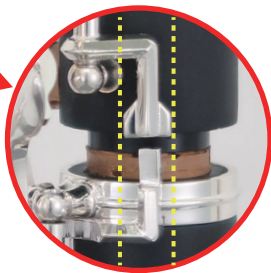
演奏の合間にもこまめにスワブを通しましょう。

## 2 管体のお手入れ



上管と下管を外します。  
組み立て時の「持ち方②」を参考にして楽器を持ち、上管と下管を左右交互に小刻みに揺らしながら抜き取ります。  
目安として、C-Dトリルキの連結部の範囲内で動かします。

大きく揺らすと、右図丸印のキイがぶつかり、故障の原因となります。



下管とベルを外します。  
右手は、組み立て時の「持ち方②」を参考にして持ちます。

左手でベルを持ちます。持ち方は組み立て時の「持ち方①」の右手の持ち方と同様に赤丸のキイを親指で押さえて持ちます。

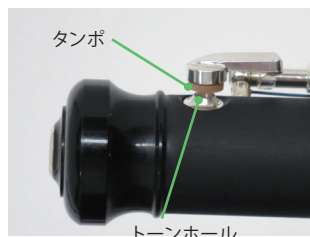


下管とベルを左右交互に小刻みに回しながら抜き取ります。



それぞれの接合部の差し込む側と受け側4か所の水分とコルクグリスをガーゼ等で拭き取ります。

## 3 タンポのお手入れ



タンポ

トーンホール

❗ タンポは水分の影響を受けやすいため、お手入れを怠ると劣化の原因となります。特にオクターブキ付近等、リードソケットに近いトーンホールほど水分がたまりやすいです。またタンポのお手入れは、演奏の合間にもスワブを通す作業と併せて行っていただく事で演奏時のトラブルの予防になります。

① キイを開き、クリーニングペーパーをタンポとトーンホールの上に挟みます。

② 再びキイを開きクリーニングペーパーを抜き取ります。  
一度で水分が取り除けない場合は、乾いた部分を使用し、数回繰り返します。

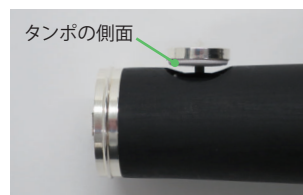
※ キイを閉じた状態でクリーニングペーパーを引き抜かないで下さい。破れたクリーニングペーパーが取れなくなったり、タンポの表面が傷む原因となります。



## 4 表面のお手入れ

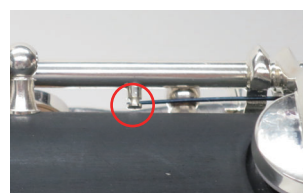


クリーニングクロスで本体の汚れを拭き取ります。  
キイに無理な力がかからないようご注意ください。



タンポの側面

タンポの側面にクロスが当たらないよう注意してください。  
タンポが傷む原因となります。



楽器には、小さいコルクや細いバネが使われています。汚れを拭き取る際にクロスが引っ掛かり外れてしまうことがありますのでご注意ください。